

都城市で肉用牛の肥育を手掛ける松山龍二さん(38)は実力派の若手農家。会合などで見掛けると、いつも細身のスーツをびしっと着こなしている。先日、母校の都城農業高を訪れた松山さんは後輩たちに「農業が3Kと呼ばれる時代は終わった。おしゃれをして仕事をきちんとして家族との時間を大切にして地域に

□ べぶん舌

溶け込む。農業は格好いい」と語った。県内には生きざまを含め、格好いい農家がたくさんいる。確かに農業の経営環境は厳しいが、マイナス面ばかりが表に出るのは好ましくない。職業としての魅力や産業としての将来性、必要性をもっと伝えなければ潜在的な後継者や都市部住民の心が離れてしまう気がする。(祐)